

4 酸素ボンベ関係の事例 ～作動確認について～

発生時の状況と経過

いつもは高等部の看護師が医療的ケアを実施しているが、この日は不在であったため小中学部の看護師が代わりに実施した。対象生徒が9時20分頃登校したので高等部の昇降口でSPO₂を測定した。SPO₂86%で、酸素2L、設定3で開始した。酸素濃縮器の作動音が小さいと感じ、再度教室で確認したが変化がなく、次回のチェック時間まで経過を見ることにした。

11時頃、トイレに行った後に測定した時点で、SPO₂84%、酸素濃縮器のバッテリーは、100%から減っていなかった。再度開始操作をしたところ振動音がし、吸気音も聞かれるようになった。数分後SPO₂は90%まで上昇した。

発生時の対応と処置

11時の時点でバッテリーの残量が100%あったことから、酸素の供給がされていないと考えた。作業担当の教諭に作業中の様子を確認し、高等部の教頭と教務主任へ報告した。保健主事は検温の巡回中であり学級担任は授業中であったため、小中学部の養護教諭に報告し同時に伝言も依頼した。13時、14時40分のチェックでも、SPO₂90%あり、バッテリーも消費されていることより、体調の悪化は無いと判断し、予定通り放課後ディサービスへ移行した。

- ※ ディサービスに行く前に電源を切らないといけませんが、うまく作動せず気持ちが焦った。
説明書を再確認し、電源を切ることができた。
- ※ 保健主事に詳細を放課後報告した。

考えられる原因や背景

普段から電源を入れても作動しないことがあり、静電気が起きやすいのか、タッチパネルに反応しにくい体質によるものかもしれないと推測した。タッチパネルの表示はすぐ消えるため、作動音が小さいと感じたら、表示の再確認と共に吸気音がしているかどうかを確認する必要があった。

再発防止に向けた対策・改善点

チェック時間は決まっていないため、気になることがあれば、早目、早目に確認するなどの対応が必要である。普段から機械の操作に慣れておくことが大切だと考え、今後は定期的に操作をすることにした。また、ハンドクリームを使用したり、静電気が起きにくいような対策を取ったりすることとした。

ポイント！

○酸素を使用した場合、必ず直後に SPO₂ が上昇したことを確認しましょう。